

副作用は薬が起こす・薬害は人が起こします

- キノホルムの販売を中止したら……スモンという病氣はなくなりました
製薬会社は「ウイルス原因説」をもちだして反論。
被害者をふやす結果を招きました
- サリドマイドの発売をやめたら……フォコメリアの赤ちゃんが激減。
製薬会社は、「妊婦にも安全」と広告。
メディアも厚生省も、海外の報告を無視。
- 海外より10カ月遅れたために
防げたはずの被害児が
100人も 生まれてしまいました
- 生きたウイルスが入っている非加熱製剤。やめたら・
…薬害エイズは発生しなくなりました
- 加熱製剤を当時つくれなかった
日本の製薬会社を保護するために、
厚生省は危険な製剤の中止を2年送らせ、
そのために、1000人以上が感染



誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、
HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を
再び発生させることのないよう医薬品の安全
性・有効性の確保に最善の努力を重ねていく
ことをここに銘記する

千数百名もの感染者を出した
「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省し
この碑を建立した

平成11年8月 厚生省

キノホルムをやめたら……スモンという病気がなくなりました
 サリドマイド剤の発売をやめたら……フオコメリアの赤ちゃんが激減
 ウイルスが生きている非加熱製剤をやめたら……薬害エイズは過去のものに
 健康局長通知が出たら症状発現が激減……それなのに、なぜ再開??

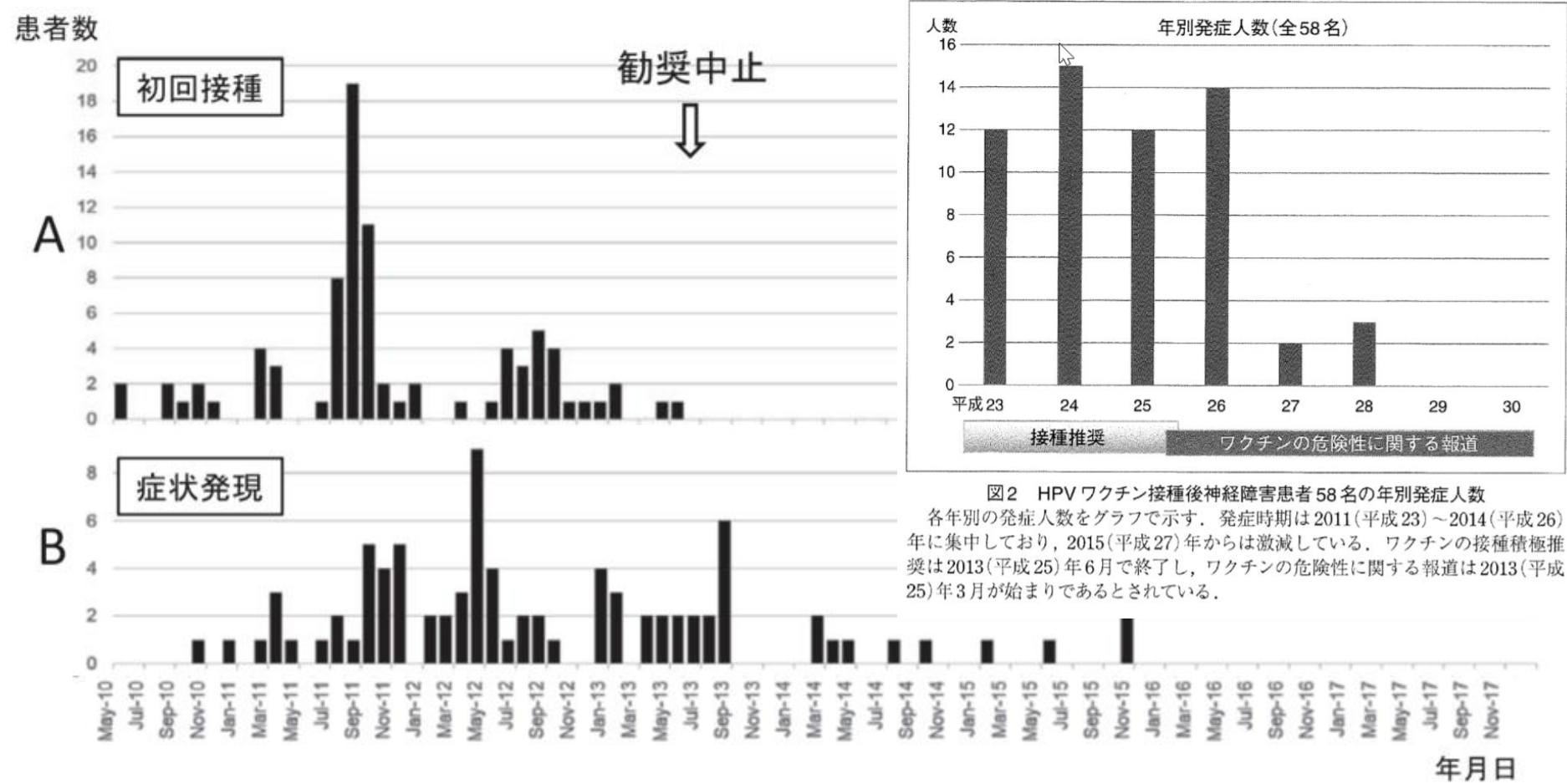


図 4 子宮頸がんワクチン接種後副反応と診断された84名のワクチン接種時、症状発現時、副反応
 当方受診時の相互関連（文献18のfigure3に10名を追加した）

その背景は

・子宮頸がんワクチンの場合

治療薬と違って、打たれるのは、**健康な少女たち**

1学年60万人 費用1人 5万円 1学年で300億円が
税金から製薬会社に
打った医師には、1人 1万4000円が

・薬害を引き起こす四位一体 製薬会社・専門医・**政治家**・行政



細田博之・衆院議長

(HPVワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟会長)

⇒**総理と厚生労大臣に**

「再開しないと期限切れで廃棄することになり、メーカーに迷惑」

公明党 副代表・**松あきら議員**が強力に推進

(議員の夫は、サーバリックスを発売する
英国のグラクソ・スミスクラインの顧問弁護士)

(その後、公明党幹部のお孫さんが、子宮頸がんワクチン後遺症に。
私の前で、涙ぐむ幹部)

誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、
HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を
再び発生させることのないよう医薬品の安全
性・有効性の確保に最善の努力を重ねていく
ことをここに銘記する

千数百名もの感染者を出した
「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省し
この碑を建立した

平成11年8月 厚生省

専門家証人2023年5月から12月

池田修一 信州大学名誉教授 名誉教授

神経難病等の専門家、厚労省副反応治療研究班班長

200名を診察 87名をHPVワクチン副反応と診断

横田俊平 横浜市立大学名誉教授 名誉教授

小児リウマチ、膠原病、若年性線維筋痛症等の専門家
小児科学会会長も。。

約150名を診察

高橋幸利 静岡神経てんかんセンター 名誉院長

小児の難治性てんかん、神経難病等の専門家

60～70名を診察

高嶋博 鹿児島大学教授

自己免疫性脳炎・脳症等の専門家

65名を診察

鳥越俊彦 札幌医科大学教授

椿広計 統計数理研究所 所長・名誉教授

臨床家の裁判での証言

- 共通の特徴的な病態
 - 多様な症状、重層化、時とともに変化
 - 既知の疾患では説明しつくせない
- 自己免疫性の神経障害
 - 自己抗体の検出など客観的所見
 - 免疫治療で改善がみられる
 - ※ 心因性(なまけ病・気のせい)ではない
- 接種状況と患者発生の時間的相関がある

多様な症状が重層化し、変化する

感覚系障害

頭痛, 四肢・全身の疼痛, 光過敏, 音過敏, 嗅覚障害, 激しい生理痛等

運動系障害

不随意運動, 脱力, 筋力低下, けいれん, 歩行障害等

認知・情動系障害

倦怠感, 集中力低下, 学習障害, 記憶障害, 相貌認知障害等

自律神経・内分泌系障害

発熱, 月経異常, 過呼吸, 睡眠障害, ナルコレプシー, 発汗過多等

既知の疾患では説明できない

➤ 池田修一名誉教授

CRPS＋POTS＋高次脳機能障害
「子宮頸がんワクチン接種後症候群」

➤ 横田俊平名誉教授

線維筋痛症を疑ったが違うと結論
「HPV ワクチン関連神経免疫異常症候群：HANS」

➤ 高橋幸利名誉院長

「わたしが知る限り同じような患者群はいない」

➤ 高嶋博教授

自己免疫脳症のびまん性脳障害の特徴がある
末梢神経障害の併存、年齢層が特殊

自己免疫性の神経障害 (その証拠は)

➤ 自己抗体検査

自律神経や認知機能の働きを阻害する自己が有意に増加

高橋P. NMDA型グルタミン酸受容体抗体（脳脊髄液）

池田P・高嶋P $\alpha 1$ アドレナリン受容体抗体等（血清）

➤ SPECT検査

大脳辺縁系、脳幹部、視床下部等の血流が有意に低下

池田P・高嶋P・高橋P

➤ 免疫治療

免疫抑制剤・血漿交換療法で一定の効果

免疫学者(鳥越俊彦教授)の証言

日本がん免疫学会理事長

- 病態の特徴と検査所見は自己免疫疾患を示す
- ワクチンが自己免疫疾患を引き起こすことは既知
(例えば、ギランバレー症候群・ADEM)

- HPVワクチンの成分から免疫学的に説明可能



HPVワクチンが原因と考えるのが合理的

危険なHPVワクチンの成分

- 免疫を過剰に活性化
 - 抗原であるL1-VLPに強い免疫原性あり(実験論文)
 - アジュバントでさらに増強
 - サーバリックス : AS04 自然感染の10.5~27倍
 - ガーダシル : AAHS アジュバントなしの100倍
- 分子相同性
 - L1-VLPとヒトのアミノ酸配列の部分一致多数
 - ↓
 - 「免疫寛容」の破綻(自己免疫)

統計学者(椿広計名誉教授)の証言

応用統計学の第一人者

臨床試験の統計解析ガイドライン原案作成に参画

中央薬事審議会委員、薬事・食品衛生審議会委員

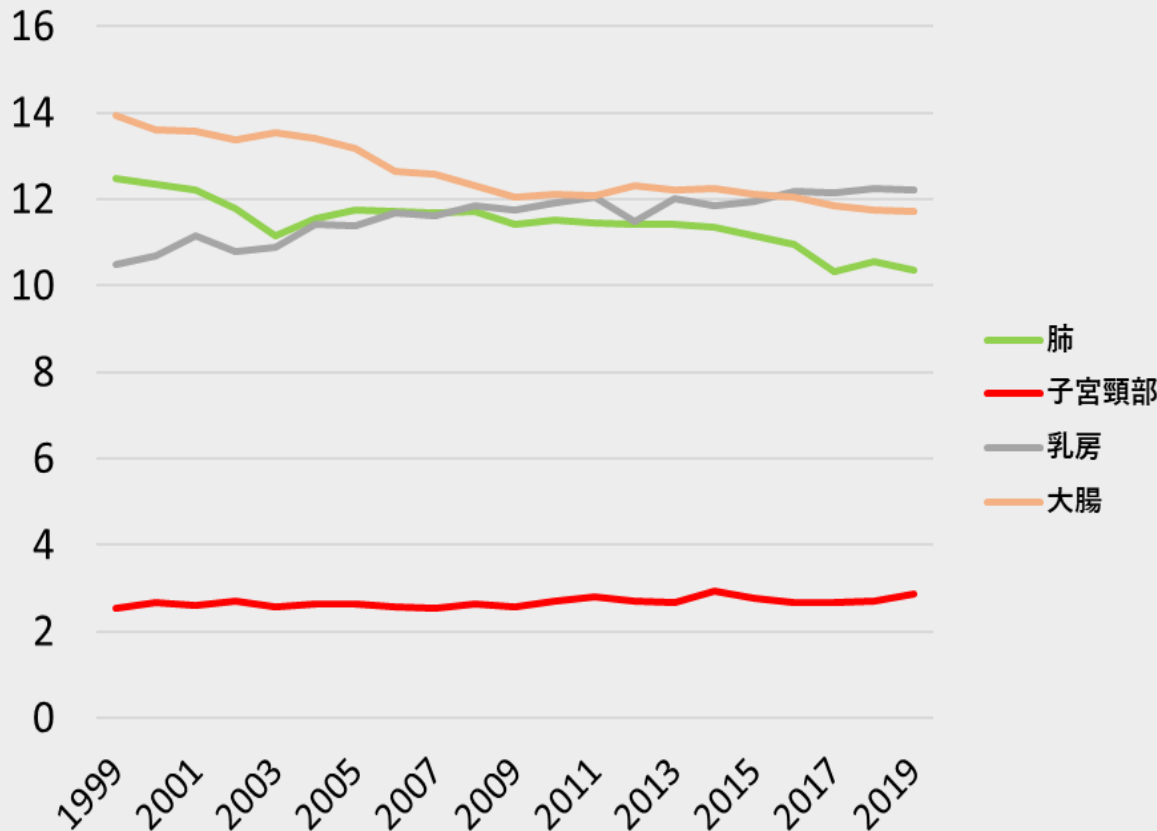
➤ 「有意差なし＝因果関係なし」とするのは「統計の誤用」

(「差がある」ことの証明ができない、だけで
「差がない」ことの証明にはならない)

➤ 国内外の調査は危険性のシグナルを示している

このような基本的な情報さえ、 メディア伝えてきませんでした(/o\)

年齢調整死亡率（人口10万人あたり）の推移



女性にとっては、乳癌、大腸癌、肺癌の方がずっと怖い

子宮頸癌は、検診で
前癌病変で、発見できる
珍しいがん

早期発見で赤ちゃんも産める

副反応疑い報告
(100万接種あたり)

HPV	355.8
4種混合	36.6
風疹	28.5
日本脳炎	23.9

えにしのHP(「ゆきえにし」ででてきます)。その中の
「子宮頸ガン予防？」ワクチンの部屋基礎的情報

<http://www.yuki-enishi.com/kusuri/keigan-00.html>